



利用促進策事例の紹介

住民（大学）、事業者、行政の協力関係

金沢大学地区金沢バストリガー協定

<概要>

旭町周辺～金大角間キャンパス間の路線バスの運賃（従来は170円または200円）を100円とする実証実験を行うにあたり、基準年度（平成17年度）に対象区間から得られた収入を実施年度に対象区間から得られた収入が超えれば、翌年度も実証実験を継続し、超えなければ、従前の運賃に戻すことができる 協定を結んだ

<協定期間>

平成18年4月1日～平成23年3月31日

<協力関係>

- ・産：北陸鉄道
- ・民（学）：金沢大学
- ・官[立ち会い]：金沢市

<メリット>

バス事業者が積極的に事業展開しようとする際のリスクを軽減

利用者には利便性が向上する代わりに、積極的かつ継続的にバスを利用する一定の責任

住民（大学）、事業者、行政の協力関係

協定に基づく取り組み

[北陸鉄道]

- 協定通り金沢大学から所定の区間(バス停で4～5 区間)内の料金を100円
- 新しい路線の設定
- 利用実績等の透明化

[大学]

- 内外への周知
 - 利用を促進するため、「公共交通は、利用者である市民・住民が支える」という意識を醸成することを目的とした取り組み(セミナー、ポスターの掲示、チラシの配布など)
- 学内駐車場利用許可証の発行の厳正化
- 購買部でのICa(北陸鉄道のICカード)の販売・普及

[金沢市]

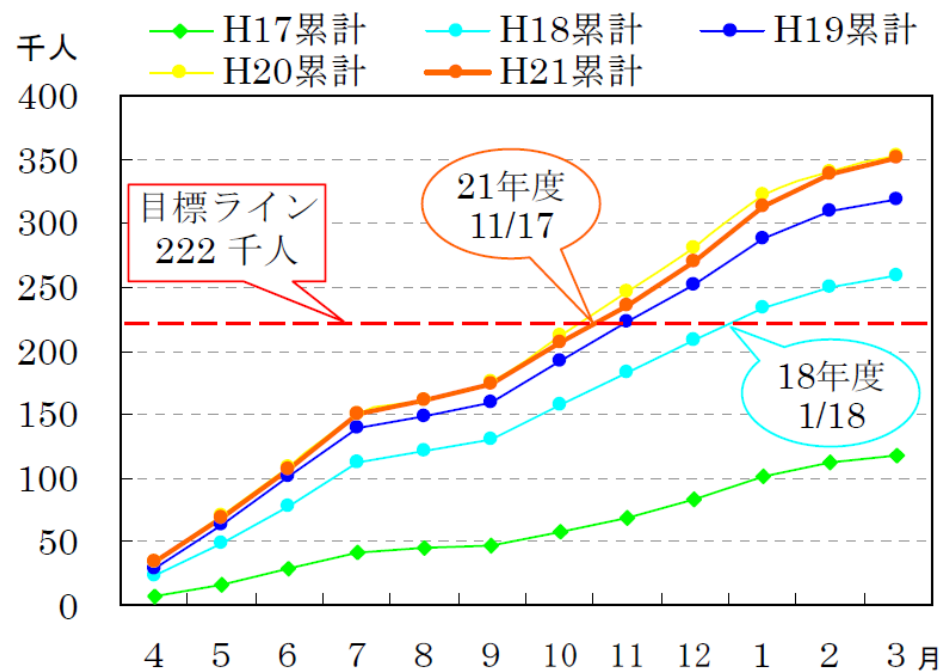
- 利用者の目標達成に向けた意識の高揚を図るためホームページで情報公開
 - 利用実績
 - 目標達成状況

住民（大学）、事業者、行政の協力関係

バストリガー制度の成果

協定に従い、協定期間中100円料金を継続

学生からは、「安いので乗りやすくなった」、「昼食を食べに校外に行くことが増えた」などの声も聞かれ、今回の取組が、単なる朝夕の通学の利便性向上だけではなく、途中時間のバス移動にも影響を与え、気軽な移動手段であるとの認識が定着してきている



年 度	目標達成月日	最終利用者数	対 17 年度比
平成 18	1 月 18 日	258,184 人	221%
平成 19	11 月 30 日	319,340 人	273%
平成 20	11 月 12 日	352,880 人	301%
平成 21	11 月 17 日	351,886 人	301%

住民（大学）、事業者、行政の協力関係

留意が必要な点：大学を対象とした場合の特殊な背景

- 多くの利用者を統括できる大学事務局があることで、協定の条件設定が容易になるとともに、事後の責任の所在が明確となる
- 学生は、社会人に比較して自動車保有率が低い（入学当初から便利な公共交通があればその後の自動車保有も抑制される）
- 通学費に手当はなく、バス料金の低減が直接的な利便性向上となる（通勤の場合は通勤手当も低減され魅力が小さくなる）
- 学生の居住地分布は短期間に変化し、利便性を享受できる人数を比較的狭い範囲で確保できる（入学当初の通学条件は、一定の居住地集約効果を有する）
- 比較的对象範囲を規定しやすいことから、可能な利便性向上策とそれを享受する利用者が明確となる

住民（大学）、事業者、行政の協力関係

新しい協定

「100円バス」の「金沢大学地区金沢バストリガー協定」は終了し、平成23年3月24日に「金沢大学地区バストリガー公共交通利用促進協定」を締結

1～4ヶ月の「トリガー実験定期券」を販売。利用者の通学通勤料金の特別割引を実施

協定期間：平成23年4月1日～平成26年3月31日（3年間）